

「子どもたちの笑顔と明るい未来のために」

平成29年度 第55回岩手県小学校長会総会開催



第299号

岩手県小学校長会
代表 石川正明
事務局 TEL.019(623)8955
盛岡市紺屋町2の9
盛岡市勤労福祉会館2F
印刷 富士屋印刷所



第五十五回岩手県小学校長会の総会が、四月二十一日（金）、県下各地区から三百十名の会員（会員総数三百二十六名）が出席し、都南文化会館（キャラホール）で開催されました。総会で選出された石川正明会長（仙北小学校）は、「未来を担う子どもたちの笑顔のために、小学校長会の組織を機能させながら、様々な情報を共有し、共に連携を強め、家庭や地域社会からの信頼と期待に応えてまいります。」と熱い思いを参加者に訴えかけました。総会の内容は次のとおりです。

総会Ⅰ（午前）

- 一 開会の言葉 太田郁夫（二戸）
- 二 国歌斉唱 伴奏 佐藤智一（盛岡）
- 三 会長代行挨拶 石川正明会長代行
- 四 感謝状・記念品贈呈 退会者六十九名（出席五名）
- 五 退会者代表挨拶 柳村 栄 氏（前会長）
- 六 来賓祝辞
 - (一) 岩手県教育委員会 教育長 高橋嘉行 氏
 - (二) 岩手県市町村教育委員 会協議会 会長 千葉仁一 氏

※ 代読 副会長 吉川健次 氏

総会Ⅱ（午後）

- 七 岩手県教育委員会行政説明
 - (一) 教職員課首席経営指導 主事兼小中学校人事課長 荒川享司 氏
 - (二) 学校教育課首席指導主 事兼義務教育課長 佐野 理 氏
 - 八 議長選出・署名委員委嘱・書記任命
 - 九 報告
 - 十 議事
 - 十一 新役員あいさつ
 - 十二 閉会の言葉 木村 徹（胆江）
- ※閉会後に、理事・評議員合同会議並びに各専門部の合同会議が開催されました。



感謝状贈呈



総会提案



会員席

子どもたちの笑顔と 明るい未来のために

〜教育の復興と教育改革〜



岩手県小学校長会

会長 石川 正明

あたたかい春の風とともに、桜の便りが県内各地から聞こえてくる季節となりました。

げます。

そして、春風とともに、今年度、新たに六十六名の校長先生方をお迎えしました。とても心強く思っております。

本日ここに、岩手県教育委員会教育長高橋嘉行様、岩手県市町村教育委員会協議会副会長吉川健次様をはじめ、多数のご来賓の皆様をお迎えし、第五十五回岩手県小学校長会定期総会を開催できますことに深く感謝申し上げます。

新会員の皆様には、これまでの豊富な教育実践を生かし、学校経営の責任者として、子どもたちの健やかな成長のために、持ち前のお力を存分に発揮されますことを、ご期待申し上げます。

この三月をもって本会を退会されました六十九名の校長先生方には、本県教育に情熱を注ぎ、その充実に多大なる貢献をされましたことに、心から敬意を表するとともに、私ども後輩への温かいご指導

に対しまして深く感謝申し上げます。

そのような新しい時代に必要となる資質・能力の育成

を目指した「新学習指導要領」が三月に告示されました。キーワードは「社会に開かれた教育課程の実現」「主体的・対話的で深い学びの視点からの学習過程の改善」であり、それを具体的に推進していく各学校の「カリキュラム・マネジメントの実現」であります。私たちは、新しい学習指導要領の趣旨を丁寧に読み解き、平成三十二年度の全面実施に向け、子どもたちにとって何が最善なのかを判断し、家庭や地域社会とのよりよい連携を検討しながら、各学校に応じたカリキュラムの編成に着手しなければならぬと考えます。

また、岩手県教育委員会は、学校教育の指針として、「知・徳・体」を総合的に兼ね備え、社会に適應する能力を育てることを義務教育の目的とし、学校経営においては、家庭、地域社会と協働する開放的で個性的な学校作りを掲げています。そして、校内における人材育成をより一層推進し全教職員の指導力向上を図ることを掲げています。

私たちは、現在求められている教育の実現のため、「子どもと向き合う時間の確保」「教員の資質向上」「特別支援教育の充実」「いじめや学校不適応問題の解消」「情報モラル教育の充実」等々、直面する重要課題に立ち向かっていかなければなりません。

東日本大震災津波から六年が経過しました。津波で被災した沿岸部小学校の学校建設は、二十八年度に五つの学校が完成し、一つの学校が二十九年度着工予定と進展を見せています。が、その一方で、校庭の仮設住宅は二十八年度に六校が撤去されましたが、全ての学校から完全に撤去されるまではあと数年かかる見込みであります。

昨年度行った被災地小学校の調査では、特に低学年児童の不安傾向が強く、子どもたちへの継続的な心のケアの必要性を示しています。

昨年七月に開催した東北連合小学校長会研究協議会岩手大会では、「東北は一つ」の合言葉のもと「郷土の復興」をテーマとしたシンポジウムを通し、あらためて、東日本大震災の傷跡の深さを認識するとともに教育の復興に向けた取組は、今後も、重要課題と確認し合った所であります。

私たち校長は、このような現状を踏まえ、震災後、もっとも大切にしてきた「明日を拓く岩手の絆」が、会員の総意であることを確認したいと思います。

そして、未来を担う子どもたちの笑顔のために、小学校長会の組織を機能させながら、様々な情報を共有し、共に連携を強め、家庭や地域社会からの信頼と期待に応えていくことを、ここにあらためて確認したいと思います。

結びに、本日の総会の開催に当たり、多大なご協力をいただきました岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、また総会の運営にご尽力いただきました盛岡市小学校長会、岩手地区校長会の皆さんに対しまして、深く感謝申し上げます。

祝辞(要旨)

岩手県教育委員会

教育長 高橋 嘉行様



第五十五回

岩手県小学校

長会定期総会

の開催にあたり、

県教育委員

員会を代表し、一言お祝いを申し上げます。

まずもって、校長先生方には、各学校の最高責任者として、日々学校経営にご尽力いただいていることに対し、心より深く感謝を申し上げます。

あの東日本大震災津波発災から六年、そして昨年八月末の台風十号による土砂災害から八ヶ月が過ぎ、今日まで、校長先生方には、各学校、地域の中心となつて、本県教育の復興と発展に向け、献身的に取り組んでいただいております。復興への歩みは、児童生徒の心のサポートや、「いわての復興教育」など、全県一体となった教育実践の積み重ねにより、着実に進んできております。

本年度は、沿岸地域の多くの被災校において、新校舎で新年度を迎えることができ、子どもたちが本来の学校生活を取り戻しつつあることを、誠に喜ばしく思っております。さらに発災以降、教職員や学校間の結びつきの強さにより、岩手の「教育

の底力」が発揮され、確実に復興が進められていることを強く感じているところです。

このような教育現場の礎を築いてきた小学校長会の皆様のご労苦とご功績に対し、心から感謝と敬意を表しますとともに、本年度、新たに校長の職に昇任された皆様には、本県の教育に新しい風を吹き込み、熱意と創造性をもつて、教職員等との相互理解に努めつつ、学校経営に思う存分力を発揮されますようご期待申し上げます。

ご承知のとおり、昨年度末に次期学習指導要領が告示となりました。二十一世紀の知識基盤社会において急激に進む情報化やグローバル化といった予測困難な社会的変化の中で、一人一人が未来の創り手となるような学校教育の在り方が求められております。このためには、「生きる力」の育成に向けた「社会に開かれた教育課程」の実現が重要であります。これまで以上に、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を重視し、主体的・対話的で深い学びの実現に向け、校長先生方には、次期学習指導要領の趣旨を学校経営に具現化していただきますようお願いいたします。

小学校教育は、幼児教育で培われてきた学びの芽生えから小学校六年間で各教科等の特質に応じた学びへと、円滑に移行させ、資質・能力の育成を図りな

がら、中学校教育へつなげる重要な時期であります。こうしたことを踏まえ、各学校においては、教育活動を通して主体的・対話的で深い学びを積み重ねながら、学ぶことの大切さやルールを守ることを、協力すること、他者を思いやる気持ちなど、人間としての基礎・基本をしっかりと培い、「知・徳・体」の調和のとれた人間形成にご尽力いただきたいと思います。

校長先生方には、夢と希望と自信と勇気をもって、学校経営にあたられ、子どもたちが「この学校に入学してよかった」、「この先生に出会えてよかった」、そのように思える魅力ある学校を創られるとともに、教職員の育成にも努めていただきたいと存じます。

県教委といたしましては、市町村教委との強固な連携の下に、学校をしっかりと支えていく考えでございますので、本県の教育行政の一翼を担っていただいている校長先生方におかれましては、今後とも岩手の教育の発展にご尽力くださることをお願い申し上げますとともに、県小学校長会をますますのご隆盛をご祈念申し上げます、祝辞いたします。

祝辞(要旨)

岩手県市町村教育委員会協議会

会長 千葉 仁一様



(代読吉川健次様)

本日ここに

県内小学校の

校長先生方が

一堂に会し、

平成二十九年度岩手県小学校長会総会が盛大に開催されますことを、岩手県市町村教育委員会を代表し、心からお祝い申し上げます。

ご参会の皆様には、県内各地の小学校において、学校経営を通じて子どもたちの教育に心を尽くされ、本県の学校教育の充実と発展にご尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

また、この三月をもちまして退職なされました皆様の、これまでのご労苦とご功績に対し、心から感謝と敬意を表するものであります。

加えて、今年度新たに校長に昇任されました皆様に対し、心からお祝いを申し上げます。

さて、昨年度は「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」が本県において開催され、県内各地で多くの競技を実施いたしました。両大会を通じて、本県選手団の大活躍、そして、それを支えていただいた校長先生をはじめとした、学校職員の方々並びに児童生徒の協力によって、成功裡に終えることができました。また、両大会

を通じて、スポーツや文化の感動を広げ、復興支援の感謝を伝えることができたことと存じており、改めて感謝申し上げます。そのような中、台風十号が沿岸市町村を中心に多くの被害をもたらしました。被害を受けた地域の本格的な復興には、まだまだ多くの時間と支援を要します。各学校での復興教育の取組におかれましても、これら被災地への支援も念頭に置いた取組を期待しているところであります。

また、各学校では、次期学習指導要領の趣旨も踏まえながら、子どもたちや地域の実態に応じた教育課程を編成し、学校経営を進められているものと存じます。子どもたちの「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「主体的に学習に取り組む態度」を要素とした「資質・能力」を育成する授業改善の取組など、子どもたちが将来に向かって自己実現が果たされるよう、一層の指導をお願いするものであります。

校長先生方におかれましては、教育現場が直面するさまざまな課題に対して、大いに指導力を発揮され、保護者や地域に開かれた学校経営を推進し、学校と地域が一体となつて、明るく、賢く、たくましい子どもたちの育成にご尽力いただきたいと思います。

結び、本会をますますの発展と、皆様方の一層のご活躍とご健勝を祈念し、祝辞いたします。



行政説明の概要

教職員の定期人事異動等の状況について

教職員課首席経営指導主事兼小中学校人事課長 荒川 享司 様



- 1 人事関係の概略 () 内は昨年度比 異動総数は 1,415 名 (-210)
- (1) 管理職～ 校長任用 81 名 (+6) 副校長 106 名 (+3)
女性管理職 校長 小学校 47 名、中学校 6 名
副校長 小学校 88 名、中学校 17 名
 - (2) 新採用～ 小学校教諭 140 名、中学校教諭 52 名、義務教育学校 (2)、養護教諭 24 名、
栄養教諭 1 名 (+54) 来年度は 220 名程度の採用
 - (3) 学校数～ 小学校 324 校 (-8)、中学校 162 校 (-2)、義務教育学校 (1)
合計 487 校 (-10)
- 2 岩手の少人数教育
- (1) 少人数学級～ 35 人学級を中学校 3 年生に拡充した。
少人数指導加配 434 名のうち 196 名を小 3・4 年、中学校 1・2・3 年に振替えて配置している。
 - (2) 少人数指導～ 211 名を少人数指導加配として、小学校は全体の約 3 割の学校に配置している。
 - (3) すこやかサポート～ 95 名の配置。
- 3 教職員の育成
- (1) 岩手大学教職大学院～ 専門的力量を備えた管理職とミドルリーダーの育成。小中学校から 12 名の派遣。
 - (2) 指導教諭～ 33 名のうち、5 名は加配で配置している。他校での積極的な指導を期待している。
 - (3) 指導養護教諭～ 11 名すべてが加配で配置。今後 10 年で 6 割の養護教諭が入れ替わる。初任者や若手への指導・助言。
- 4 コンプライアンス
- * 昨年度は懲戒処分 13 件。体罰事案も 2 件発生。「所属長によるコンプライアンス宣言」「不祥事を起こした職員に対し、所属長が事後研修」の取組を行う。

学校教育課関係事業について

学校教育課首席指導主事兼 義務教育課長 佐野 理様



(はじめに)

一人一人に向き合い、寄り添う学校教育の充実と、切れ目のない学びの保障の実現を目指して「県教委と知事部局が一層の連携を深めながら、子どもたちを総がかりで育てていく」という考えで取り組んでいく。

一 学校教育の重点

① 教育施策の重点事項

ア 大震災津波からの教育の復興

・ いわての復興教育の推進

・ 幼児児童生徒の心のサポートの充実

イ 第三期アクションプランの着実な推進

* 学校教育の充実のための指標、目標

・ 児童生徒の学力向上

・ 「わかる授業の推進」

・ 明確な学習課題の提示、能動的な授業展開、学習に関する諸調査の活用等、学校組織全体の取組の充実

「家庭学習の充実」

学びが確かなものとり、豊かな学びへ

・ キャリア教育の推進

・ 豊かな心を育む教育の推進

・ 健やかな体を育む教育の推進

・ 特別支援教育の充実

・ 家庭・地域との協働による学校教育の推進

・ 学校経営の推進

・ 新学習指導要領の最後

のまとめの二年間であることも念頭に。新学習指導要領内容の周知と理解の年に。八月上旬に事務所ごとに説明会実施予定。

② 特別な教科「道徳」

・ 移行期間の最終年度。教科書の採択の年。八月に六年ぶりに東日本ブロック道徳教育指導者養成研修会が本県で開催予定。

・ 前文はこれまでなかったこと。総則も厚みがある。八月の説明会では総則部会も設置予定。

・ 三 終わりに

・ 県学調で注視している七項目全ての項目で積極的肯定が増加した。

・ 新学習指導要領について

・ 外国語教育の充実

・ 前文と総則

・ 前文はこれまでなかったこと。総則も厚みがある。八月の説明会では総則部会も設置予定。

大会宣言

岩手県小学校長会は、本会結成以来、会員の総意と叡知を結集して、課題解決に主体的に取り組み、着実にその成果をあげてきた。私たちは、校長としての使命と職責の重大さを深く自覚し、「新たな知を拓き人間性豊かな社会を築く日本人の育成」を目指すとともに、「いわての復興教育」の視点を踏まえた学校づくりを推進し、県民の信託に応える責務がある。ここに、岩手県小学校長会会員の総力を結集し、次の事項の実現に全力を傾注することを、第五十五回総会の総意をもって宣言する。

一 確かな経営理念のもと、「生きる力」の育成や「命の大切さ」を育む調和のある教育課程の着実な実施と評価、改善を行う。

一 東日本大震災から六年を経過した学校運営上の諸課題を的確に把握し、被災地区の支援や沿岸部と内陸部の学校間連携、震災を後世に語り継ぐ活動などを組織的・継続的に推進する。

一 校長自ら研鑽に励むとともに、教職員の資質・能力の向上を図り、「ふるさと」を愛し、共に支え合いながら未来を拓く子どもを育てる岩手の「学校教育」を推進する。

一 自他の命を大切にしながら共に生きる心の育成と人間尊重の精神に基づく積極的な生徒指導の充実を図る。

一 調査研究及び必要活動を組織的に推進し、教育諸条件の改善・整備のための取組を推進する。広報活動の充実と会員相互の情報交流に努めるとともに、関係諸機関、団体との連携強化を図る。

平成二十九年四月二十一日 岩手県小学校長会 第五十五回 総会

地区校長会研究交流

未来に向かって主体的に生きる力を 育てる一関の教育

一関地区校長会

一 はじめに

一関地区には、一関地方小学校校長会、一関地方中学校校長会、一関市校長会、平泉町校長会と四つの校長会の組織があります。平成二十九年年度の一関市内には小学校三十三校、中学校十七校、平泉町内には、小学校二校、中学校一校であわせて、五十三校が一関地区にあります。これが、平成三十年度になると学校の統合により、六校減の四十七校となつてしまいます。今後、児童生徒数の減少により学校統合が進む予定になっていきます。このような中で、一関地区の校長会では、小学校中学校の連携を密にしながら、岩手県小学校長会・中学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に、児童生徒に「主体的に生きる力」を育てため研究の推進にあたっています。

毎年、一月の第三火曜日に開催される「一関地方小・中学校研究発表大会」では小学校校長会が合同で小学校三部会（全六部会中）・中学校一部会の研究について発表し、交流を図っています。

二 研修計画の概要

本年度の一関地方小学校校長会の研修は次のような方針で進めていきます。

- ・教育専門職としての資質を高めるとともに、学校経営者としての資質・能力を一層練磨する。
- ・岩手県小学校長会の研究の趣旨及び研究の視点を基に、新しい教育の創造に確かな識見と展望をもって、研究を推進する。
- ・研究にあたっては、六つの部会を構成して行う。
- ・研究の成果は研究報告書にまとめ、次年度以降の研究

に資するとともに、本会主催の研究発表会において発表し、研究成果を共有する。

三 研究部会構成概要

- ・今年度の研究部会構成（小学校六部会）と主題は次のようになっています。
- 第一部会（組織・運営）
- 学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営（三年次・最終）
- 第二部会（教育課程）
- ※「健やかな体」の分科会に移行し新テーマのもとで研究を進める。
- 第三部会（指導・育成）
- ※新テーマのもとで研究を進める。
- 第四部会（経営・ビジョン）
- 明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進（二年次・最終）
- 第五部会（学校経営）
- ※「学校経営」の領域に移行し、新テーマのもとで研究を進める。
- 第六部会（危機管理）
- 様々な危機への対応と校長の在り方

四 県大会発表概要

昨年度の県胆江大会で一関地区からは小学校から二つの部会で発表を行ってききましたので、概要を紹介します。

指導・育成部会

◆研究主題 将来への夢や展望、参画意識を持たせる研修の推進と校長の役割、教職員に展望と参画意識を高める取組を通して

◆研究のねらい 教職員一人一人に夢や展望、参画意識を持たせるような校内研修の推進に向けた、校長の果たすべき役割と指導性について究明する。

◆研究内容と方法

○参画意識を持たせる手立ての考察 ○参画意識を持たせるための取組の実践
・資料分析・フリートーキングによる課題の把握・実践を通じた検証と分析
〈指導・育成部会は東北連小でも発表してきました。〉

健康・環境部会

◆研究主題 心身の健やかな成長を目指す健康教育の推進

と校長の在り方「テレビやゲーム機、情報通信機器の使用」に関する実態調査を通して

◆研究のねらい 自ら進んで健康づくりに取り組む児童の育成をめざし、テレビやゲーム機、情報通信機器等についての使用実態を把握し、取組課題を明らかにする中で、健康教育の充実を図るための校長が果たすべき役割や在り方を探るものとする。

◆研究内容

○学校保健委員会協議内容からの児童を取り巻く健康上の問題把握 ○テレビやゲーム機、情報通信機器の普及が児童に及ぼす影響についての調査の実施 ○調査結果の分析と考察
※成果と課題については県大会集録を参照ください。

五 おわりに

来年度の県宮古大会では一関地区から小学校部会に「教育課程部会」（健やかな体）と「危機管理部会」（危機対応）の発表が予定されています。たくさんのご意見ご助言をどうぞよろしくお願いいたします。

（一関市立室根東小学校 高橋 澄夫）

村の復興と共に

久慈地区校長会

東日本大震災から六年三か月。大津波の被害を受けた場所に防災機能を備えたセンタービルが完成し、十九ヘクタールもの広さの防災都市公園（十府ヶ浦公園）が整備され、間もなく村の主要な復興のハード事業が完了を迎える。県の工事、高さ十四メートルの防潮堤（第一堤防）は、まだもう少し時間が必要だが、三陸鉄道と四五号線による第二堤防、十府ヶ浦公園に造られた第三堤防の三つで街が守られ、将来にわたって災害に強い新たな村の姿が形になってきている。

私が着任したのは、平成二十七年四月、大震災から四年を経過した頃である。そのときは、すでに瓦礫はすべて撤去され、途切れることのない復興の槌音があちらこちらから聞こえていた。

震災時、野田小学校自体の被害はなかったものの、野田村は、大津波で死者三十七名、村の中心部を含む多くの場所で住居が損壊・流失するなど、壊滅的な被害を受けた。

前任の校長先生は、その厳し

い環境の中で、「子どもたちが一生懸命頑張る姿は、大人たちの笑顔の原動力になる」ことを肌で感じ、「地域と共に」を学校経営のキーワードとして教育活動を進めた。地域の活動への参加・村の事業への協力を積極的に推進してきたのである。

赴任して初めての運動会は、スローガンが「元氣と笑顔を届けよう」であった。児童会の話合いでも、自分たちの頑張りが地域に元氣と希望を与えることに考えが及んでいたのである。特に、平成二十五年度に立ち上げられた「野田小ソーラン」は、五・六年生中心の演技であるが、陣地で一年生から腰をかがめて踊る姿に、自分たちの頑張りを発信する気概が溢れていた。

八月。村の祭典「野田まつり」のステージ発表にも、ソーランの出演をした。子どもたちは、村のためにと語りかける担任団の気持ちを受け止め、さらにすばらしい演技を披露した。

学習発表会も同様で、地域を意識し、自分たちが感じ・考えたことをまとめ表現する、自

分たちの頑張りを発信する会であった。地域の期待に応える野田小の子どもたちと涙を流し、熱い視線を送る保護者・村民の姿があった。

赴任二年目。子どもたちを取り巻く村の素晴らしい環境と見守る人々がいることを強く感じ、復興教育では、「かかわる」をポイントにして教育課程の見直しをしようとした。

私自身も地域に足を運び、村のよさを体感する中で、震災以降中止していた特産品「野田塩」づくりを復活させたいと思うようになった。何度か校内で検討を重ね、三年生の総合の単元「野田のおいしいもの発見」に組み入れられた。

また、復興教育指定校として、被災地の学校として幅広く実践が積み上げられていたものをベースに、さらに地域・人とかかわりの視点で精査した。学校支援地域本部事業も活用しながら、全学年に地域学習を偏りなく行えるように単元の組み換えを行った。

同時に、地域の特産品を扱った野田村の事業「米作り体験」や「わかめ給食」「しいたけ給食」「ほうれん草給食」「鮭の日給食」に復興教育の視点を加え、生産者の方や村産業振興課・広域振興局、教育委員会と

連携をし、六年間のトータルとして、子どもたちが村の人とかかわり、村の産業とかかわり、ふるさと野田村から学ぶ教育活動となるよう配慮した。

そして、いよいよ平成二十九年度。村の復興計画の中のむらづくりでは、人・自然・歴史・文化等との「つながり」が打ち出されている。本校としても、それらの考えを生かした教育活動をさらに模索している。

その取組の一つとして、完成する十府ヶ浦公園を学習の場として可能な限り活用することである。六月の公園開園式典には、野田小ソーラン隊が参加し、演技を披露する。また、取組開始から六年目となる公園花壇のグラウンドワーク（六つの花壇のデザインワークシヨップ・試験栽培、植栽）が最終段階を迎え、花壇への植栽・管理は、本校で実践しているスマイル班（縦割り班）活動によって全校で行うこととした。自分たちの花壇に主体的にかかわる中で、「自分のふるさととはこうしたい」という気持ちや、村とのつながりを意識させていきたい。

さらに、十一月に行われる校内マラソン大会は、例年校庭発着で行っていたが、公園で行うこととした。自分たちの花壇か

らスタートし、十府ヶ浦からの潮風を受けて走る子どもたちと応援する村民がつながる大会となるように、村・教育委員会のサポートを要請し、準備をしている。

このように、本校で展開している復興教育は、野田村の復興と共に歩み、これからもその道は変わらない。一村一小学校である野田小学校の子どもたちは、村の宝であり期待である。それを真摯に受け止め、村のためにできることを、子どもたちも私たち職員も一緒に考えていきたい。そうして、野田村を見つめ直し、野田村を愛する子どもたちを育てることが、これからの岩手の復興・発展を支える人づくりになると考えている。



野田まつり「野田小ソーラン」

（野田村立野田小学校
校長 安倍 哲矢）

平成29年度

岩手県小学校長会役員

会長(1名)

盛岡地区 盛岡市立仙北小学校長 石川 正明

常任理事(5名)

総務部・事務局長 盛岡市立桜城小学校長 外山 敏

副会長(4名)

盛岡地区 盛岡市立見前小学校長 加藤 孔子

行財政部 盛岡市立中野小学校長 佐藤 卓

岩手地区 雫石町立下長山小学校長 目時 雄二

研修部 盛岡市立本宮小学校長 古玉 忠昭

胆江地区 奥州市立前沢小学校長 木村 徹

広報・編集部 盛岡市立仁王小学校長 仁昌寺真一

宮古地区 宮古市立宮古小学校長 青笹 光一

生徒指導部 盛岡市立津志田小学校長 太田 勝浩

事務局(2名)

会計監事(3名)

和賀地区 西和賀町立湯田小学校長 盛島 寛

事務局長 外山 敏

気仙地区 陸前高田市立高田小学校長 菅野 義則

常勤書記 石亀 智美

久慈地区 久慈市立宇部小学校長 藤嶋 茂美

理事

評議員

地区名	学校名	理事氏名	学校名	評議員氏名	学校名	評議員氏名
盛岡	城南	大西洋悦	北厨川	佐々木幸彦	永井	佐々木勝広
			好摩	藤井新一		
			岩手	下長山		
紫波	水分	小原真一	煙山	菅原文彦		
花巻	太田	鎌田省三	花巻	小田島聡		
遠野	遠野北	佐々木一人	綾織	小菅公夫		
和賀	江釣子	高橋憲一	黒沢尻東	川村淳		
胆江	前沢	木村徹	常盤	渡辺唱光	岩谷堂	佐々木道雄
一関	一関	千代川晶則	山目	千田智明	滝沢	池田智
気仙	盛	平山敏也	気仙	菅野稔	横田	菅野祥子
釜石	小佐野	紺野綾子	唐丹	一條直人		
宮古	宮古	青笹光一	山口	佐々木計		
久慈	夏井	大芦教子	久慈	坂川孝志	長内	渡邊彰彦
二戸	福岡	太田郁夫	浄法寺	平義昭	一戸	大道正樹

専門部担当理事・専門委員等

(◎は部長)

総務部担当理事 (6名)

大西 洋悦 (盛岡・城南)
 目時 雄二 (岩手・下長山)
 木村 徹 (胆江・前沢)
 青笹 光一 (宮古・宮古)
 加藤 孔子 (盛岡・見前)
 ◎外山 敏 (盛岡・桜城)

行財政部担当理事 (3名)

鎌田 省三 (花巻・太田)
 太田 郁夫 (二戸・福岡)
 ◎佐藤 卓 (盛岡・中野)

研修部担当理事 (3名)

小原 眞一 (紫波・水分)
 高橋 憲一 (和賀・江釣子)
 ◎古玉 忠昭 (盛岡・本宮)

広報・編集部担当理事 (4名)

佐々木一人 (遠野・遠野北)
 千代川晶則 (一関・一関)
 紺野 綾子 (釜石・小佐野)
 ◎仁昌寺真一 (盛岡・仁王)

生徒指導部担当理事 (3名)

平山 敏也 (気仙・盛)
 大芦 教子 (久慈・夏井)
 ◎太田 勝浩 (盛岡・津志田)

行財政対策委員 (5名)

及川 政己 (盛岡・東松園)
 畠山 雅之 (盛岡・土淵)
 北田 光志 (盛岡・山王)
 田口 秀樹 (盛岡・渋民)
 藤井 新一 (盛岡・好摩)

調査研究委員 (6名)

畠山 隆 (盛岡・都南東)
 真壁 信義 (盛岡・青山)
 菅原 文彦 (盛岡・太田)
 千葉 亨 (盛岡・見前南)
 細川 雅彦 (盛岡・向中野)
 山本 勉 (盛岡・巻堀)

広報・編集委員 (5名)

作山 文康 (盛岡・大慈寺)
 山口 道明 (盛岡・山岸)
 宮崎 正俊 (盛岡・城北)
 藤原 安生 (盛岡・手代森)
 中村 互 (盛岡・北松園)

生徒指導委員 (5名)

高橋 眞司 (盛岡・松園)
 山本 守 (盛岡・米内)
 菊池 誠也 (盛岡・繫)
 川上 良治 (盛岡・高松)
 中館 秀行 (盛岡・羽場)

全連小理事 (2名)

石川 正明 (盛岡・仙北)
 外山 敏 (盛岡・桜城)

全連小現職教育委員会 (1名)

仁昌寺真一 (盛岡・仁王)

全連小健全育成委員会 (1名)

太田 勝浩 (盛岡・津志田)

全連小各部担当者 (3名)

- (1) 対策担当者
佐藤 卓 (盛岡・中野)
- (2) 調査研究担当者
古玉 忠昭 (盛岡・本宮)
- (3) 広報担当者
仁昌寺真一 (盛岡・仁王)

東北連小理事 (2名)

石川 正明 (盛岡・仙北)
 加藤 孔子 (盛岡・見前)

東北連小専門委員 (2名)

- (1) 教育課程委員
古玉 忠昭 (盛岡・本宮)
- (2) 対策委員
佐藤 卓 (盛岡・中野)



理事会・評議員会合同会議



研修部合同会議



生徒指導部合同会議

編集後記

○ 総会において、会長に選出された石川正明校長は、「未来を担う子どもたちの笑顔のために、小学校長会の組織を機能させながら、様々な情報を共有し、共に連携を強め、家庭や地域社会からの信頼と期待に応えていくことを改めて確認し合いたい。」と、力強く会員に呼びかけました。

また、高橋教育長は祝辞の中で、「校長先生方には、夢と希望と勇気をもって、学校経営にあたられ、子どもたちが、『この学校に入学してよかった。』『この先生に出会えてよかった。』、そう思えるような魅力ある学校を創られるとともに、教職員の育成にも努めていただきたい。」と期待を述べました。

○ 東日本大震災津波から六年が経過しました。「いわての復興教育」の目的に沿い、一人一人の子どもが、自他の生命や体を守るとともに、生活上や社会貢献に向けて、よりよい考え方や行為を、主体的に判断し、実践する力が育まれるような取組を、各学校の実情に応じ、積極的に推進してまいります。

(担当 仁昌寺真一)